

2022/7

No. 33



医療法人 成精会

刈谷病院

Harmo-net

ハへモネット

精神科病院における新型コロナウイルス 感染症・クラスターを経験して ～病院が一体となった32日間～

令和4年1月26日、休暇中の私のもとへ「〇〇病棟の職員1名のPCR陽性が確認されたので、14時から対策本部を立ち上げます」と看護副部長から連絡がはいりました。第6波の感染拡大を懸念して、つい先日クラスター発生時のBCP(事業継続計画)を作成し、シミュレーションを行ったばかりでしたので、「ついにその日がやってきたか」といった覚悟のような心境で病院へ向かいました。この報告によって始まった当院のクラスターは3月1日収束宣言が出されるまで、入院患者さん25名、職員5名の計30名にのぼりました。

発生病棟は長期入院患者さんが多く入院されている慢性期閉鎖病棟で、個室は少なく多人床の大部屋が多く、トイレや浴室は共有、食事もDルームで集まって召し上がっていただく、いわゆる古くからある精神科の特徴的な病棟で、コロナ対策の3密を避け、換気を十分にするには大変難しさがありました。

対策本部を管理棟の大会議室に設営し、フェーズ5(感染拡大の指標)とし、BCPIに則って濃厚接触者を抽出してPCR検査を実施しました。結果は全員陰性、ほっとしていた矢先、1月28日、個室の患者さんが発症し病棟はレッドゾーンとなり、2月1日には3名の職員の陽性が確認され、その後は毎日のように新たな感染者が発生しました。陽性者の数が少ないうちはコホートできたのですが、マスクをつけていただけなかったり、共有スペースで飲食をしたりと感染はどんどん広がっていきました。

対策本部と病棟をZoomでつなげ、毎日リアルタイムに情報を共有し、多職種で支援を実施しました。栄養科は患者さんへ間食や水分補給用パックのお茶・コーヒーや弁当を、看護部からは応援チームの介入とごみ捨てや物資搬入、そして温かい清拭用ディスポのタオルを、事務部や施設課は外部との連携、医療社会事業科やデイ・ケア、作業療法科はご家族との頻回な連絡担当、心理科はメンタルクライシスとケアについて考えてくれました。また、薬剤科は重症者を出さないよう薬剤情報をリアルタイムに発信し、法人本部は迅速に物資を調達し、適宜ホームページに感染情報をアップしました。そして、クラスター発生時も今も私たちが安心して業務に従事できるのは、検査科がいつ何時も多くのコロナ関連検査を率先して実施し、適切に導いてくれるおかげだと頭が下がる思いです。

また、レッドゾーンの看護職員には病院中から差し入れや応援メッセージが届けられ、刈谷病院がまさに一体となった日々でした。

今振り返ってみると、32日間に亘るレッドゾーンにて重症者を出さずに収束できたことは、院長や医師がイニシアティブをとり対策本部が発信した早め早めの対応と、該当病棟の職員及び全職員がそれぞれの立場で考え活動したチーム力と、不安な気持ち

を持ちながらも病院の指示に従って頂いた入院患者さんのご協力があったからこそ収束だと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。そして、感染管理認定看護師のハビリスーツ木看護介護部長、夏目様による早期からの介入は、現場の動線を考えたゾーニングの指導など感染対策に脆弱な私たちにとって大きな支えとなりました。「いつかは終わる!!」夏目さんから頂いたこのお言葉を呪文のように呟いていました。



看護部長

松本 利恵

刈谷病院は慢性期病棟がレッドゾーンを余儀なくされた期間も、外来及び他病棟は通常診療体制でした。応援チームや家庭内感染でマンパワーが不足している中で、地域のニーズに応えようと安心・安全に外来診療を支えた職員、そして懸命に入院を受け入れた職員、また、リアルタイムに情報をくださった愛精協の看護部長の皆さん、そしてご理解をいただき見守ってくださった地域の皆様に心より御礼申し上げます。

まだまだ新型コロナウイルス感染症との付き合いは続きます。しかし、「正しく恐れる」をモットーに、刈谷病院のチーム力があれば乗り切っていけるような気がしています。

ゆたかな心、こまやかな関わり、最新の医療

法人の理念

- ① すべての人に差別のない目、ゆとりのある態度で接すること
- ② 他者の立場にたった思いやりのある態度で接すること
- ③ 従来の自分たちの技能や実践に満足せず、常に検証と改善を心がけ、時代の要請に応えていくこと

法人の基本方針

- ① 丁寧な説明と意思決定のもとに医療と福祉を実践します
- ② 安心、安全な医療福祉環境作り積極的に取り組みます
- ③ 精神科救急を軸にした地域医療に積極的に取り組みます
- ④ 精神科リハビリテーションに積極的に取り組みます
- ⑤ 障害者の地域生活支援に積極的に取り組みます
- ⑥ 地域の医療機関、行政、福祉施設をはじめ、すべての社会資源との連携に積極的に取り組みます
- ⑦ 精神保健医療福祉についての啓発活動に積極的に取り組みます
- ⑧ 職員の研修と研鑽に積極的に取り組みます
- ⑨ 職員の健康維持と健康増進に積極的に取り組みます

刈谷病院 委員会特集

《当院の新型コロナウイルス感染症対策について》

新型コロナウイルス感染症が世界的流行して、2020年1月に国内で初の感染者が報告されてから、ダイヤモンド・プリンセス号での新型コロナウイルスに対する連日の報道で、未知のウイルスに対して恐怖を感じたのを今でもしっかりと記憶している。

当院は2020年4月に臨時危機対策会議(後の『新型コロナウイルス感染症対策会議』)を開催して、外来や入院患者への対応・職員や職員家族への対策などを話し合い、対策を立案して実施した。新型コロナウイルス感染症対策会議は、概ね週1回月曜日にZoomでのリモートで行い、県内や当院の近隣地域(衣浦東部圏域)の感染状況を共有して、病院長を中心に各部から管理者や関係部署が参加して、感染状況に合わせて対策を協議している。

その中でフェーズ表を作成し、外来・入院・デイケア・作業療法及び職員の動線や活動などをフェーズに沿って検討している。病院出入口を制限し、全職員が協力して当番制で職員が立ち、検温や問診票の実施など行っていた。現在は感染状況やマンパワー不足もあり検温と注意喚起の掲示を行っている。また会議室や職員の休憩室にも人数制限を設けたり、職員食堂や入院患者さんの食事の際のテーブルの配置の工夫・黙食のポスター掲示などを行っている。職員の就労ガイドラインも策定し、濃厚接触者への抗原検査キットの配布や感染休暇など福利厚生も整備した。PPEもアイシールドの装着や二重マスクなど試行錯誤しながら現在に落ち着いた。会議の議事録は院内メールで全職員へ周知している。その他には2020年12月に院内発生時のBCPを作成して「どのような動きになるのか」「どのような対策が必要になるのか」確認や訓練のため、実際にシミュレーションも行った。

約2年間は院内感染ゼロを維持していたが、残念ながら今年1月に慢性期病棟で入院患者さん25名、当該病棟職員5名に感染者が発生しクラスターと認定された。新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、ほぼ毎日Zoomによりリモートで当該病棟と会議室を繋ぎ、感染状況の確認や把握を行い、感染者には新型コロナウイルス感染症治療薬の内服や点滴を実施して早期から治療を行うことができた。

現在も新型コロナウイルス感染症対策会議は毎週実施している。今後は、感染対策を行いながら「withコロナ」新たな生活様式を考えていかなければいけないと考えている。

当院をご利用の患者さんやご家族には、かなりのご負担やご不便をおかけしています。引き続き、ご理解ご協力をよろしく申し上げます。



知っておきたい精神科基礎知識

【睡眠時無呼吸症候群について】



● 睡眠時無呼吸症候群とは

睡眠は人生の中でも数分の一と長い時間を占めます。何のためにあるのか等、詳しいことは分かっておらず、未だ謎も多い睡眠ですが、睡眠不足が不調につながることも多かったりし、少なくとも健康な生活には適切な睡眠が必要であると言ってよいでしょう。そんな睡眠中に、呼吸が上手にできなくなってしまい、酸素が不足してしまうことがあります。そのような状態が一定の基準を満たすと、睡眠時無呼吸症候群(sleep apnea syndrome, 略してSAS)と診断されることになります。

● 睡眠時無呼吸症候群の原因

最もよく見られる特徴は、いびきです。寝ている間は筋肉がゆるみ、気道(鼻や口から肺につながる空気の通り道)がふさがってしまうと呼吸がうまくできなくなります。多いのが舌の付け根や喉のあたりでふさがったり狭くなったりしてしまうことで、それがいびきにつながります。特にいびきをしていて、途中で静かになり、また急にいびきが始まる方の中には、実は途中で静かになっている時に気道がふさがってしまい呼吸が止まっている方も多いです。脂肪がついていると気道が狭くなり閉塞しやすいので、肥満の方は睡眠時無呼吸症候群に注意が必要です。ほかにも舌べろが大きい、喉の奥の扁桃腺が大きい、もともとの骨格の特徴等が気道の閉塞のしやすさにつながることもあります。風邪をひいたりすることで一時的に呼吸が難しくなることもあります。

物理的に気道がふさがってしまうこと以外にも、脳から「呼吸しなさい」と筋肉を動かすように指令する信号が弱くなることで呼吸が乏しくなる場合があります。

● 影響や特徴

睡眠時無呼吸症候群で脳が酸素不足になることで、睡眠の質が下がり、日中の眠気や集中力などの低下の原因になります。影響はそれだけでなく、精神的には性格変化、うつ状態、体の問題としては高血圧、心筋梗塞などの心臓や血管の問題、糖尿病、などなど、さまざまな心や体の調子の不良と関係があると言われており、予防や対処が重要と考えられます。

睡眠時無呼吸症候群で見られやすい特徴は、寝ている間のいびき、不眠、睡眠が浅くなることが挙げられます。また脳が睡眠不足や酸素不足の状態になることで、朝起きた時に頭痛がおきやすく、また口で呼吸することが多いので、起床時にのどが渴いていることも多いです。

● 検査

睡眠時無呼吸症候群の可能性がある人は、寝ている間の呼吸の状態と体の酸素の状態を測る検査をします。おなかまわりに呼吸の運動のセンサー、口と鼻に空気の流れのセンサー、指に酸素のセンサーなどをつけ、実際に寝てもらい睡眠中の状態を調べます。自宅に装置を持ち帰る簡易なもの(令和4年5月現在、刈谷病院で実施可能)、詳しく調べる必要があれば、医療機関に一泊して実施する、脳波などさらにセンサーを増やして検査するものもあります。気道の形を調べるための画像撮影などの検査が用いられることもあります。

● 対処

検査で一定の基準を超えると、CPAP(シーパップ)という機械を使うことが勧められます(検査で基準を満たせば、令和4年5月現在、刈谷病院で実施可能)。これは鼻だけ、あるいは鼻と口を一度に覆うマスクをつけ、そこから空気を送り込む装置で、気道を空気で押し広げることで、ふさがってしまうことを防げます。管がついたマスクをつけながら寝ることで違和感があるかもしれませんが、この装置を使って、ようやくぐっすり眠れたという方も多いです。

ほかには、歯医者さんで気道を広げるためマウスピースを使用したり、原因によっては手術が勧められたりすることもあります。

体重管理、肥満の方はやせることで呼吸の状態が良くなる方もいらっしゃいます。

仰向けだと特に気道がふさがりやすいので、抱き枕などで工夫し、横向きで眠れるようにすることで改善することもあります。アルコールや睡眠薬の一部によっては筋肉のゆるみが強くなることで調子が悪くなることもあるので、飲酒は控えめにし、睡眠薬に関しては処方している医師と相談しましょう。

第15回あったかハートまつり開催

第15回あったかハートまつりが2022年5月29日に開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催でしたが、1,180名の方に来場していただき大盛況でした。屋外の開催、ソーシャルディスタンス確保のため、第2会場を刈谷市障害者支援センターに設けました。たくさんの方に足を運んでいただき、恒例の似顔絵コーナー、おもちゃ作り体験コーナー、バルーンアートを楽しんでいただきました。

看護師 杉浦 亜佳音



材料 (2人分)

- 豆腐 …………… 1丁
- なす …………… 1/2本
- トマト …………… 1/2個
- きゅうり …………… 1/2本
- ごま油 …………… 適量
- 唐辛子(輪切り) …… お好みで
- ★麺つゆ …………… 大さじ1
- ★水 …………… 大さじ1
- ★おろし生姜 …… 小さじ1
- ★いりごま …………… 小さじ1

夏野菜のピリ辛やっこ

～夏バテ予防で心も体も元気に!～

作り方

- ①なす、トマト、きゅうりを5mm角に切る。
- ②フライパンにごま油、唐辛子を入れて加熱し、なすを加えてしんなりするまで炒める。
- ③トマト、きゅうり、★を入れて混ぜる。
- ④お皿に豆腐を盛り、その上に③をかける。
(ピーマン・パプリカ・オクラ・かぼちゃ・ズッキーニなどの夏野菜もオススメです)



vol.32

お手軽!

レシピ

ワンポイント

豆腐にはたんぱく質を多く含むほかに疲労回復に効果のあるビタミンB1が含まれています。また夏野菜は体の調子を整えるビタミンや体温調整に関わるミネラルを多く含んでおり、この時期に積極的に摂りたい栄養素ばかりです。室内外との気温差で体調を崩したり、夏バテで食欲がなくなったりしやすい時期ですが、そんな時こそ栄養のあるものを食べて暑さを乗り越えましょう!



管理栄養士 横谷 あい



患者さんの権利

- 人間としての尊厳が認められる権利
- 平等に医療を受けられる権利
- 十分な説明を受け、知る権利
- 医療を選択し、自己決定する権利
- 治療スタッフを知る権利
- 個人情報の秘密が厳守される権利
- 治療上のルールを守り、治療に参加する責任
- 治療上で必要な情報を提供する責任
- 医療費を支払う責任

患者さんの責任

編集後記

昨年、一昨年と開催できずにさみしい思いをした初夏の恒例行事「あったかハートまつり」が今年は規模を縮小して開催することができました。この2年間に学んだことを生かして以前の生活にもどっていただきたいと思います。

広報委員 神谷

すいぶんとあたたかく、日によっては蒸し暑くもなってきましたね。街の様子も少しずつ変わりはじめて、気を配りつつも、色々なものの「再開」を目の当たりにし、うれしくもある毎日です。

広報委員 鈴木

神経科・精神科
医療法人 成精会
刈谷病院
編集・発行 / 
〒448-0851 愛知県刈谷市神田町二丁目30番地
TEL (0566) 21-3511 FAX (0566) 21-3536
<http://www.kariya-hp.or.jp> 携帯HP / <http://www.kariya-hp.or.jp/i>



交通のご案内

- 車で
 - 国道23号線 野田ICから車で10分
 - 上重原ICから車で10分
 - 無料駐車場 117台
- 電車
 - JR東海道線刈谷駅 南口より徒歩10分
 - 名鉄三河線刈谷駅 南口より徒歩10分

